_____

_____

_____様

有機 EL ディスプレイ部材市場をさらに追加し、パワーアップ！　お手数ですが最後までお読み下さい!!

Advanced Market Report

# LCD / OELD 部材・需給年鑑 2003 のご案内

特集：有機 EL ディスプレイ部材市場の予測

## ●本レポートのこれまでにない特徴

1．FPD 中小型や LCD 業界の収益動向までをも詳細にまとめ大好評を博した『LCD / FPD 市場戦略年鑑 2002-03』の補完版として位置付けられる。分析には、マーケティング手法を駆使した。
2．TFT 需給動向と供給上のボトルネックとなる部材動向を予測する。
3．各種部材の市場構造・寡占度を分析して、LCD メーカーには生産計画・価格戦略上の問題点、部材メーカーには参入各社の競争力を提示する。
4．収録有機 ELD 部材数も追加。OELD 部材市場の全貌を 2007 年まで予測した初のレポート！
5．ベストセラー『有機 EL ビジネス最前線』（工業調査会刊）の詳細版としての利用も可能。

## ●本レポートのコンテンツと内容・サマリー

Executive Summary

Ⅰ．特集：有機 EL ディスプレイ部材市場の予測
1．OELD 市場の予測
・2007 年の市場は 3,270 億円市場。2003-04 年より大型化、アクティブマトリクス化が進む。供給体制拡大が望まれる。
2．発光層材料の市場予測
・2007 年に 50 億円弱の市場。市場は低分子材料から。但し OELD 部材には大きな技術的ブレークスルーが必要。
3．正孔注入層材料の市場予測
4．正孔輸送層材料の市場予測
5．電子輸送層材料の市場予測
・2007 年の市場は各 30 億円弱。現状では Eastman Kodak が市場をリード。同じく技術的確立が期待されている。
6．主要部材の予測　～基板およびドライバーのボトルネック
・2007 の市場は基板 30 億円、ドライバー 280 億円。OELD 部材総市場は、2007 年に 450 億円で、OELD 市場の 15%弱。
・ドライバーおよびガラス基板の供給体制が不充分でボトルネックとなる可能性。

Ⅱ．TFT 需給予測
1．TFT 生産能力推移
2．日韓台メーカートータルでの需給バランスのシミュレーション
・韓国/台湾勢の第 5 期ライン本格稼働。大型 TFT 需要増加によって 2003 年より年率 30%以上の増設テンポが必要。
3．日本メーカーと中小型 TFT の需給シミュレーション
・日本勢が中小型に特化した場合、2007 年までの需要を満たせる。高精細品を考慮しても、ここ 2-3 年の増設は不要。

Ⅲ. LCD 市場拡大のボトルネック分析と部材市場構造の総括

1． 部材産業の位置付け

・2002 年は 8,910 億円市場で、年平均 10.8%づつ成長し、2003 年には 1 兆円を突破、07 年は 1 兆 3,830 億円を予測。

・部材市場は、全 LCD モジュール市場の 25-30%に当り、依然として LCD 関連産業の中核をしめる。台湾勢が台頭。

2． TFT 市場の成長を狂わす要因＝部材のボトルネック分析

・2003-04 年はまで、ガラス基板が LCD 供給上の大きなボトルネックとなる可能性を孕んでいる。

3． 各種部材の市場形態から見た部材価格の予測

・下がり難い市場構造：プラスチック基板、CF オーバーコート、クロムターゲット、ラビング布、シール材、液晶材料
売手独占市場、寡占市場＋上位 1 社の RMS が 1.5 以上、代替品がない、パネルメーカーの内製がない、などの市場。

・価格の下がり易い市場構造：カラーフィルター、配向処理膜、バックライト、導光板
寡占度が低い、上位 1 社の RMS が 1.5 未満、競合が激しい、パネルメーカーも内製、調達が容易、などの市場。

4． TFT の原価予測からみた価格引き下げ要求

・2006 年の 15 インチ価格は 2 万円で、部材コスト原価率は微減に留まる。利益計上のために償却費・販管費がポイント

Ⅳ. 主要 LCD 部材の需給バランス予測

1． ガラス基板の需給バランス
2． カラーフィルターの需給バランス
3． ドライバーIC の需給バランス
4． 偏光フィルムの需給バランス

・部材メーカーの設備増強は計画的に行われており、大きな需給の変動は基本的には考え難い。台湾も部材産業育つ。

・その中でガラス基板は中短期的に大きなボトルネック。TFT パネルの需給に深刻な影響を与える危惧を孕む。

Ⅳ. LCD 部材市場予測

(1) 市場規模と予測（2000-2007）、(2) 用途・技術動向、(3) 価格動向、(4) メーカー動向と納入動向、
(5) 市場形態・競争力分析（寡占度・RMS 分析：2000-02）、(6) メーカー内製化動向、など

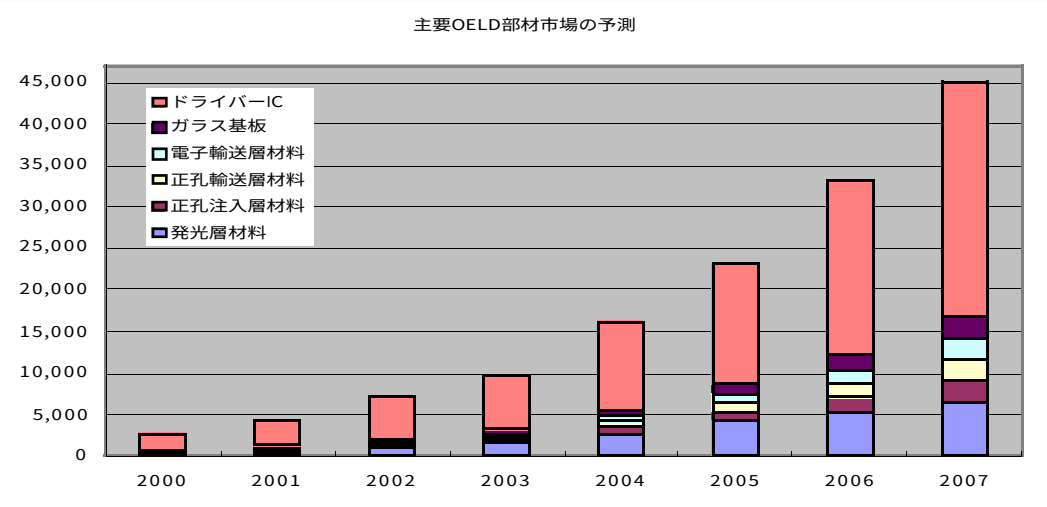
1． ガラス基板：白板・青板とも市場寡占度が高い。白板の早期的能力増強が期待され、単価は 10%下落傾向。
2． 成膜基板：TFT メーカーの膜付内製化、BM の脱クロム化により、市場は下降。三星コーニングが躍進。
3． プラスチック LCD 基板：成長率は高いが、未だプラ液晶の市場は大きくない。将来のフレキ OELD に期待。
4． アルカリ封止膜：STN, TN 市場は成熟化しており、2003 年以降の市場は漸減傾向。
5． ITO ターゲット材：レアメタルのインジウムの入手難、市場寡占で単価が下落率低し。TFT, CF 向け市場が急成長。
6． 電極保護コート剤：STN が小型品中心になってきており、市場は漸減傾向。典型的な 3 社寡占市場。
7． カラーフィルター：市況は年 10%のダウン。凸版の一人勝ち状態。台湾で大幅な能力増もあり、生産基地はシフト。
8． カラーフィルター用顔料分散型レジスト：CF の需要拡大により、市場は拡大。比較的寡占度が高い。
9． カラーフィルター用顔料：Ciba の競争力が極めて高く、価格下落が起りにくい典型的なマーケット。
10． クロムターゲット・樹脂ブラックマトリクス：Cr は東ソーの一人勝ちも、環境問題から樹脂 BM への移行が進む。
樹脂 BM の金額ベースの CAGR は驚異的な 58%を予測。
11． カラーフィルターオーバーコート剤：JSR の独占度が高い。但しスリット＆スピン法採用で、原単位が大きく減少。
12． 液晶用フォトレジスト：自由競争度が高く、市場は堅調に推移。高精細化でネガ型が活性化してきている。
13． 配向処理膜：3 社寡占型であるが、競争が激化しているため、価格は年次下落傾向となる。
14． スペーサー：様々なタイプがあり、積水化学が大きくリード。市場自体は大きく拡大。スペーサーレスの動きあり。
15． ラビング布：寡占市場で、ラビング工程自体もっとも不安があるプロセス。市場はラビングフリー製法の進捗による。
16． シール剤（基板接着剤）：三井化学が圧倒的シェア。したがって単価下落が考え難い市場。成長率は 10%弱か。
17． 液晶封止剤：ヘンケルジャパンの RMS が高い。UV 硬化型にシフト。
18． 液晶材料（ミクスチャー）：3 社の競合が大きい。首位のチッソに韓国に強いメルク、三番手のロディックが挑む。
19． 液晶用光学フィルム（偏光板/位相差板）：画質向上フィルムの成長率年 20%以上。偏光フィルムも 15%以上の成長。
20． 蛍光ランプ型バックライトユニット：市場変動が大きく、台湾でも生産。平均単価は大きく下落し、シェア変動も大。
21． EL ランプ型バックライトユニット：セルラーや PDA のカラー化によって、需要は大幅に減少傾向となる。
22． 導光板：パネルメーカーにも供給。導光板レス・プリズムシートレスなど様々な動きがあり、価格は下落。SKC 躍進。
23． 拡散シート：3 社による寡占市場。価格下落は小さいが、拡散シートレス・反射型の趨勢などにも左右される。

24. プリズムシート：住友スリーエムの独占市場。ただしプリズムレスの動きもあり、単価は小幅な下がり基調を予測。
25. タッチパネル：PDA のみならず、タブレット PC 等の大型 TFT 分野での応用も進み、市場は大きく拡大。
26. 異方性導電膜：２社寡占があり、価格下落は最小限。pSi･TFT の COG 実装にも使用され、市場機会は拡大。
27. TCP（TAB フィルムキャリア）：２社の激しい競合もあるが、セルラー・モニターの狭額縁化で COF 実装が増加。
28. ドライバーIC：供給体制整備で、高精細化（SXGA 以上）向け 480 出力品の供給が活発化。07 年の内製率 80%以上。

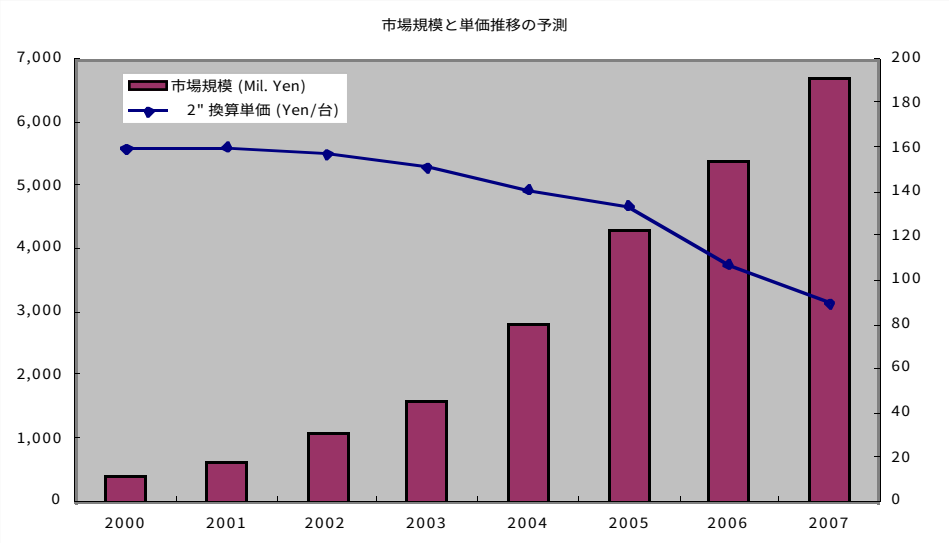
※『LCD/FPD 市場戦略年鑑　2002-03』についても、未だご注文を受け付けております。
http://infinite-tec.com で内容見本のダウンロードができます!!　尚『同年鑑 2003-04』は７月発刊を予定しています。

※『有機 EL ビジネス最前線』（2002.7、工業調査会刊、共著）が昨年のベストセラーランキングに載りました。
御礼申し上げます。ご購入が未だの方は、お近くの書店または、以下のアドレスへ！
http://chuo.netbank.co.jp/kocho/mybooks/ISBN4-7693-1215-6.htm

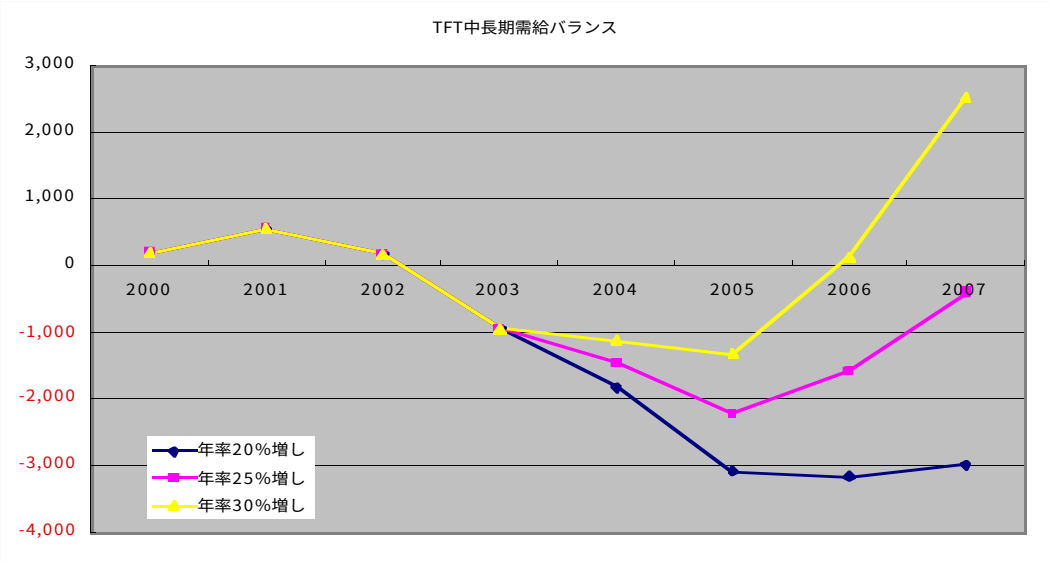
## ●内容見本



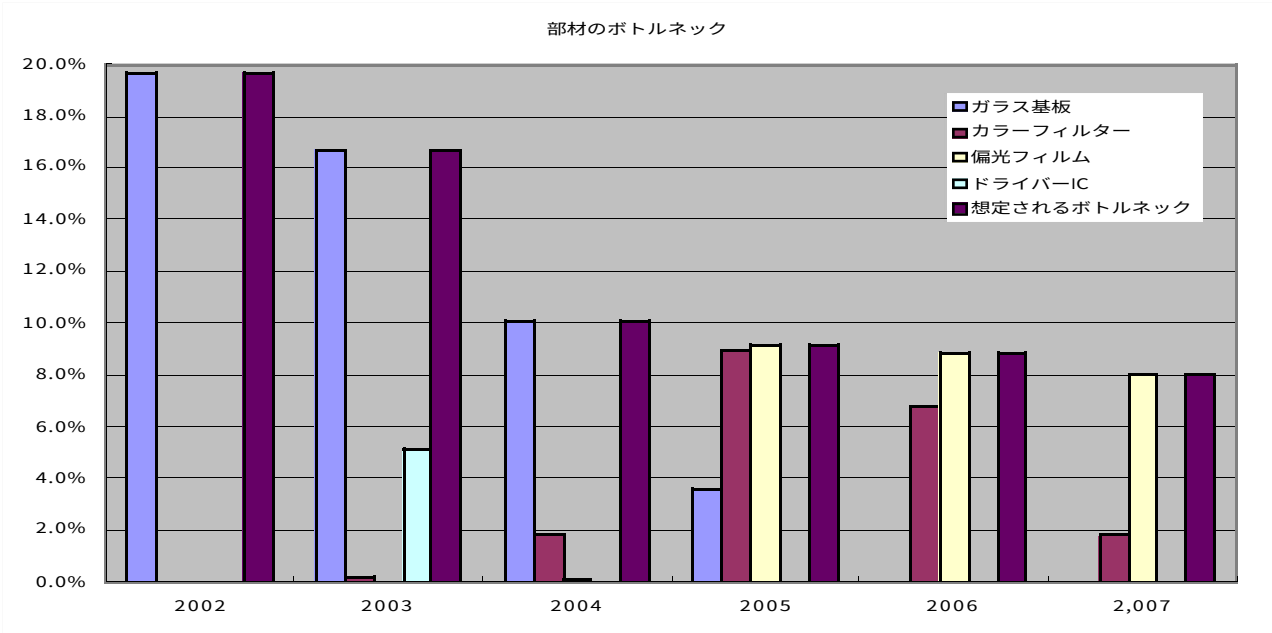

OELD 主要 6 部材の 2007 年までの予測



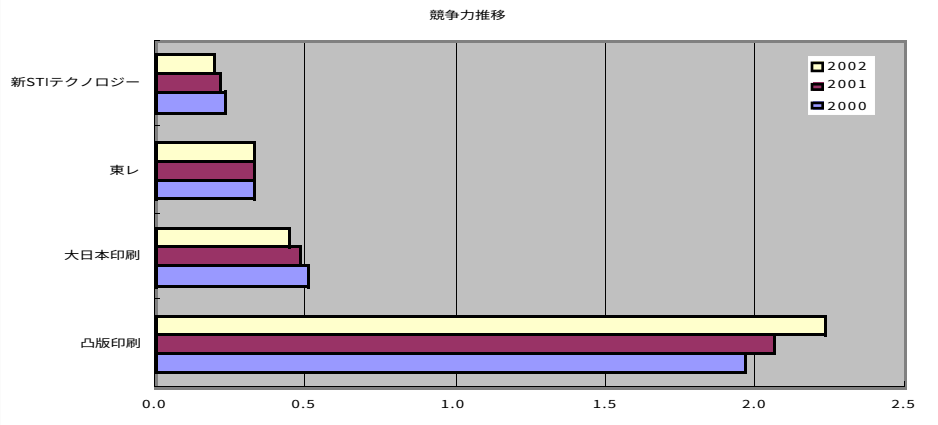

OELD 発光層材料の単価およびマーケット予測




TFT の需給バランスと増設計画のシミュレーション




TFT 市場への主要 LCD 部材供給上のボトルネック分析




LCD 部材メーカーの RMS・競争力分析

| | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | CAGR |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TFT用BL需要 | 100,720 | 136,330 | 171,050 | 227,750 | 302,850 | 382,350 | 523,450 | 667,850 | 31.0% |
| BLユニット出荷台数 | 40,288 | 54,532 | 68,420 | 91,100 | 121,140 | 152,940 | 209,380 | 267,140 | 31.0% |
| カラーSTN需要 | 11,500 | 53,150 | 103,300 | 142,000 | 167,300 | 169,300 | 114,500 | 61,700 | 27.1% |
| カラー反射型 | 2,500 | 20,000 | 40,000 | 60,000 | 80,000 | 70,000 | 70,000 | 60,000 | 57.5% |
| BLユニット出荷台数 | 9,000 | 33,150 | 63,300 | 82,000 | 87,300 | 99,300 | 44,500 | 1,700 | -21.2% |
| 計 | 49,288 | 87,682 | 131,720 | 173,100 | 208,440 | 252,240 | 253,880 | 268,840 | 27.4% |

LCD 部材の需要予測・試算

## ●発刊内容

＜発刊日＞　2003 年 1 月 15 日
＜体　裁＞　基本的に PDF ファイル版（CD-ROM）のみでの供給となります。
　　5 部以上お申し込みの場合は、ご相談下さい。
＜価　格＞　予約特価：100,000 円（税別）　定価（2 月 15 日以降のご発注）：120,000 円（税別）
＜申　込＞　付属の注文書に必要事項をご記入のうえ E-mail または FAX でご送付下さい。お電話でも結構です。

お申し込みまたは問合せ先
（株）インフィニット・テクノロジーズ　　大垣　城治
〒158-0083　東京都世田谷区奥沢 6-5-10-502　☎ 03-3702-0526　FAX 03-3702-0515
E-mail: george@infinite-tec.com　　会社概要は、http://infinite-tec.com へ！

---------- 注　文　書----------

発注日：　　年　　月　　日

『 LCD / OELD 部材・需給年鑑　2003』を以下の通り申し込みます。

貴社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　部数　PDF 版：　　部

所在地　〒＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

部署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご担当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　☎＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

E-mail＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

通信事項＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

∞ Infinite Technologies, 2003